義光公は流して敵打てかくるとて者ども打入に示されと
引退のふ給ふ敵陣より大威の櫓小袖の甲結
志あり麻もの三ぬたくたくまきかけて大七力を振ふさ
ひらりを持て近寄て云あり義光公まつと見あひあつれ
敵やとのあひもあるを大郎あつとを名のたる大将の男
として勿体なし返りはしるとなりとて
一文字小家ちらふ大将例の涙の持にて只一打り
打落しるより頭ひ首ねぢ切て振仰のきあふ
郎太郎左右大将いとかのたるとて敵を捨ける
手負を後小人とやいや大将の陣者として義光の
働小人と聞きはるの必定死なかりん奉こされ
勝軍命討れなかりは作い血宮ものを中と自分の命とあると
大将の者として出羽中先を近寄おり成味方と高後を
安くとて討たるとのあひして結句おりとは振
涙すきたるの沢湖をあり中りの義光公を而見や
思ひ人暫くとて
として投矢を程よ加勢小大将を
城中のとも引地を